

1. 教授要目（全学科目・1年次専門科目）

I 文系科目・総合科目

文系導入科目

意思決定の基本ロジック（Basic Logic of Decision Making）

木嶋 恭一 教授 前学期 2-0-0

住宅の購入，就職先の決定，新製品開発等々，我々の周りには意思決定が必要な様々な分野・レベルの意思決定状況が満ちあふれている，本講義は，そのような複雑性に満ちた意思決定状況に対処する，合理的な意思決定の基礎的な考え方（ロジカル・シンキング）について解説することをねらいとする。「意思決定とは何か」から始め，複雑性の分類とそれらの取り扱いの方法とモデルまで，1回読み切り形式で話題を提供する。高校時代には体験しなかった社会や人間の振る舞いに対する数理的なアプローチの一端を述べるだけでなく，その最先端の話題まで言及する。

世界文学入門Ⅰ（Introduction to World Literature I）

市川 伸二 教授 北川 依子 准教授 薩摩 竜郎 准教授 木内 久美子 准教授

戦 暁梅 准教授 F.ジャン 外国人教師

前学期 2-0-0

国際化時代に異文化理解は必須の課題である。そのためには，世界各国の主要な文学作品を通して，諸国民の考え方，感じ方，つまりは「心性」を理解するのも一方法であろう。本授業は，「文学とは何か」を皮切りに，ドイツ・フランス・ロシア・中国・英米の代表的作品（小説・詩・思想等）を鑑賞・考察する。授業は外国語研究教育センターの教員が，それぞれの専門を踏まえ，オムニバス形式で行うが，当該外国語の知識はなくてもよい。

世界文学入門Ⅱ（Introduction to World Literature II）

（平成27年度休講）

未定 後学期 2-0-0

授業内容はⅠに同じ。採り上げる作家・作品等は異なる。

コラムランド（Column Land） SC：（H26登録）創造性育成科目

山室 恭子 教授 前学期 1-1-0

まっしろな紙のまんなかにはぼつりと1行——あなたの大切な人は，誰ですか。

これもまたコラムです。2005年度夏の陣，「問」セッションの3位入賞作品。2002年度夏の陣，「愛」セッションで首位をさらい伝説となった「欲しい。」につぐコラムランド史上2番目の短さでの入賞でした。

と，ここまでで「コラム」という言葉の既成イメージを崩していただけたでしょうか。コラムランドでの「コラム」は何でもあり。ときに爆笑，ときにしみじみ，そうやって友人たちの作品を堪能しつつ，自分もその中に参戦してゆくことで，文章力と発想力と，そして度胸が鍛えられるしくみです。

B5一枚のまっしろな紙がキャンバス。自分の中の可能性を探してみませんか。——あなたの大切な人に，思いを伝えるために。

意思決定理論の展開 (Improvements of Decision Making Theories)

(平成27年度休講)

猪原 健弘 教授 前学期 2-0-0

意思決定理論、特にゲーム理論は、様々な形で拡張され多くの分野を派生させている。実際、メタゲーム理論、ハイパーゲーム理論、ソフトゲーム理論などはすべて非協力的ゲーム理論から派生したものである。この講義では、それぞれの理論の特徴について解説していく。

There are many variations and generalizations of decision making theory, in particular, game theory. In fact, metagame theory, hypergame theory, and soft game theory come from non-cooperative game theory. In this lecture, introductions to these theories are provided.

日常生活と法 (Daily life and Law)

金子 宏直 准教授 前学期 2-0-0

参加型講義で生活に密着した視点から法律問題に関心を持ち考え、社会人として必要になる法律知識を身につけます。

現代科学技術と社会 (Science Revisited: An Approach to Science and Technology Studies)

中島 秀人 教授 前学期 2-0-0

科学技術の成果が社会に深く浸透するに伴って、その負の影響が懸念されるようになっているのは周知のことである。1999年には、世界の科学者、技術者がブダペスト宣言を採択したが、そこでも、科学をどのように社会に役立てるかが重要な課題とされた。この授業では、科学技術と社会の間に起こる諸問題について、テーマを毎回変えながら議論し、このような問題にどのように取り組むべきかを考える。知識を修得するというよりは、多様な角度から問題をとらえる方法を学ぶ。授業の評価は、レポート50%、出席50%を目安とする。教科書は使用しない。

都市のシステム (Topics on Urban Systems)

十代田 朗 准教授 他 各教員 後学期 2-0-0

現代文明の集積である都市をテーマに、都市と社会の関わりを考慮しつつ、都市の様々なシステムについて、各教員が今日的话题を中心に、社会工学の立場から都市へのアプローチを論ずる。

科学者とは何か (On Becoming a Scientist: An Introduction to Academic Life)

梶 雅範 准教授 後学期 2-0-0

現代社会において科学者（研究者）がどのような位置にあり、どのような役割を果たしているのか。現状はどうであるのか探り、研究者への道を紹介し、現代の科学者（研究者）には何が要求されているのかを考え、科学者（研究者）をめざす人への導きになることをめざす。

風景学入門 (Introduction to Landscape Study)

桑子 敏雄 教授 前学期 2-0-0

「風景の目利きになる」

風景は、人間が自分の環境に対して行ってきた行為を映し出す鏡です。日本の風景のなかに、日本の思想と文化があります。

風景の見方を学ぶことによって、環境について考え、また、自分自身の姿を学ぶことができます。

本講義では、身の回りの風景に対する目利きになるためのトレーニングを行います。あわせて、まちづくりや公共事業への参加のあり方や合意形成のプロセス、その中で行われる議論の進め方などについても実践的に学びます。

パフォーマンス論 (Study on Performance)

上田 紀行 教授 後学期 2-0-0

様々なパフォーマンスに接して、「感性」を磨く講義である。パフォーマンスとは何か、なぜ人間は言語だけでなく、身体を使い、曖昧とも思える表現方法を取るのか。演劇、音楽、祭などにおけるパフォーマンスを幅広く取り上げ、パフォーマンスの本質、その解釈などについて論じる。

社会のモデル入門 (Introduction to modeling in social science)

中丸 麻由子 准教授 後学期 2-0-0

文系基礎科目の数理社会学第一および第二の導入にあたる講義を行う。社会をモデル化するとき、社会の切り口を何にするかでもモデルの構築方法が異なる。この講義では進化を切り口とした時の社会モデルを紹介する。そして、受講者はExcelを用いて実際に自分の手でモデルを解析して解析手法を学び、自らのアイデアでモデル作成もおこなう。

この講義を通して、モデルによる社会研究とはどういうものなのかを知ってほしい。

ゲーム理論入門 (Introduction to Game Theory)

武藤 滋夫 教授 後学期 2-0-0

社会・経済システムを数理的に記述し分析する理論である「ゲーム理論」について、その数学としての理論的基礎を提供した上で、適用例を紹介する。まず、非協力ゲーム、協力ゲームの表現形式、解概念を紹介した後、企業の合併、公共財の供給、オークション、共同事業における利益の分配、投票による意思決定、社会的な慣習の形成、マッチングなど、さまざまなケースのゲーム理論による分析を紹介する。

政治過程論 (Political Process)

谷口 尚子 准教授 前学期 2-0-0

本講義では、現代政治学における「政治過程」の中核的トピック、すなわち、①政治哲学、②公共政策、③立法過程、④行政過程、⑤選挙過程、⑥世論過程、⑦政治組織（政党・利益集団）を概観する。これを通じて、私達の生活や社会と「政治」がどのように関わっているか、自分なりの「見取り図」を構築してもらいたい。

ニュースから現代を見る (Knowing the world by news)

池上 彰 教授 後学期 2-0-0

受験勉強が終わって大学に入学したら、学習と研究・実験に忙しく、ニュースを見ることがない。あなたは、こういう学生ではないだろうか。学生も社会の一員であり、社会を構成する上での責任が生じる。社会を知るためにニュースは必須のアイテムである。

とはいえ、テレビや新聞を見る時間がなかったり、見ても理解できなかったりすることも多いだろう。そのニュースは、どういう意味なのか。どんな背景があるのか。それぞれの時点での最新のニュースを取り上げ、一緒に考えていきたい。

現代アート (Contemporary Art)

伊藤 亜紗 准教授 前学期 2-0-0

アートとはコミュニケーションです。作品の解釈に「正解」はありません。だからこそ、みんながどのように感じたかを言葉にし、お互いに議論することができる。そこにアートを見る楽しさがあります。その楽しさを味わってもらうために、本講義は、参加型の形式をとります。まず受講者は小グループに分かれ、講師が持参した作品（キュビズム、シュルレアリスム、ポップアート等）をじっくりと観察し、ディスカッションします。その後、ディスカッションの成果を発表

してもらい、講師がそれを膨らませる形で作品について解説を行います。講師や仲間との対話を通して、「科学とアートの違いとはなにか」「人間とは合理的な生き物なのか」といった根本的な問いについても考えていくことになるでしょう。

グローバル化時代の国際政治 (Globalization of Politics)

池上 雅子 教授 後学期 2-0-0

通信・交通・情報技術の進歩により、人類の相互交流・相互依存は劇的に密接化している。国際金融は時空間を超え、多国籍企業は世界各地に生産拠点を築いて世界市場を目指す。金融、資源、技術の移転や人的移動は益々高速化しながら国境を超え、法や社会経済的動態、文化思想も国際的レベルで形成されつつある。近代以降、政治は伝統的に国民国家の枠組みで行われ、国民政府が第一義的に政治、経済、安全保障を担い、人々は国民国家という共同体に帰属したが、いまやグローバル化によってこの国民国家システムが崩壊しつつある。我々の社会・生活とアイデンティティは何処へ？本講では、グローバリゼーションと伝統的国民国家システムとのせめぎ合いから生ずる様々な課題を考察しながら、グローバリゼーションの功罪を問い、グローバル化時代の政治学的知識と思考の涵養を目指す。

入門経済学 (Introductory Economics)

後藤 美香 教授 前学期 2-0-0

経済学における基本的な考え方や社会におけるさまざまな問題に対するアプローチの仕方について解説する。

市民社会とガバナンス (Civil Society and Governance)

坂野 達郎 教授 後学期 2-0-0

豊かな社会の実現に、科学技術の発達には欠かせません。しかし、科学技術の発達だけで、豊かで平和が持続する社会は実現できるのでしょうか。長い歴史の試行錯誤を経て、人類は様々な社会装置を作ってきました。正当な権力を独占する国家と、貨幣を媒介にして効率的な資源配分を達成する市場は、現代の社会が依存している2大社会装置です。政治学と経済学は、これまで国家と市場の働きを説明することに取り組んできました。現代社会の豊かさは、国家と市場の働きに依存していると考えていたからです。しかし、近年、国家と市場の働きに影響をあたえる要因として、市民が自由に活動することで形成される社会（市民社会）に注目が集まっています。社会変動に強い国家や市場は、しっかりとした市民社会を基盤にしていると考えられるようになっていきます。それでは、権力や貨幣とは異なる市民社会の原理とは何なののでしょうか。そもそも市民とはどのような存在と考えられてきたのでしょうか。本講義では、組織の経済学と討議民主主義の理論を柱にして、社会の仕組みについて理解を深めることを目的にします。

文系基礎科目

倫理学 (Ethics)

桑子 敏雄 教授 前学期 2-0-0

倫理とは人間の選択する行為の規範です。倫理は個人の内面に形成された規範であることで、社会的に制度化された法規範と異なっていますが、現代社会では、このふたつの規範の間は狭まっています。倫理は、行動規範やガイドラインといった形で整備される一方、しつけや教育によって社会的に形成されるだけでなく、個人の意思のもとで形成されるので、ひとの生き方にも深く関わっています。本講義では、以上のような倫理の本質について論じるとともに、現代社会が要請する生命倫理、環境倫理、企業倫理、科学技術倫理等について論じます。

哲学 (Philosophy)

桑子 敏雄 教授 後学期 2-0-0

哲学とは人間と世界の根源的な関係を問う営みです。本講義では、哲学的な考え方を体得することを目標にして、哲学的な対話をもとにしたコミュニケーションとプレゼンテーション、哲学的な文章の読解と書き方の訓練などについて総合的に取り組みます。各講義でとりあげる哲学的なテーマは、自己、存在、精神と身体、環境、科学、倫理など、哲学的思考と科学的思考の共通性と差異をしっかりと認識するのに適切と思われるものをとりあげます。

論理学第一 (Logic I)

東 克明 非常勤講師 前学期 2-0-0

論理学を命題論理と述語論理に分けて論ずる。

第一では命題論理を扱う。まず、条件文と否定文について日本語文の記号化と演繹を学習し、その後、連言、選言、双条件文を含む一般的な命題論理の体系を扱う。最後に、体系の完全性と健全性を証明する。

論理学第二 (Logic II)

東 克明 非常勤講師 後学期 2-0-0

第二では述語論理を扱う。まず、単項述語論理を説明し、その後、多項述語と関数詞を含む述語論理へと拡張する。最後に、モデルの概念を説明し、体系の完全性と健全性について説明する。なお、第二の履修に際しては第一を既に履修していることを条件とする。

西洋近現代思想史 (History of Modern Western Thoughts)

山田 有希子 非常勤講師 前学期 2-0-0

「思想」とは「いかに生きるべきか」の指針になるものであり、さらに、ある哲学者によれば、精神的かつ物理的な意味において、防衛と攻撃の「武器」ともなりうるものである。周知のごとく、とりわけ「西洋」「近代」思想が現代社会に与えてきた影響は、宗教、政治、経済、科学技術等々の多方面において無視できない多大なものがある。本講義のねらいは、時間的・空間的に遠い異国の思想を通覧するにとどまることなく、同時に、我々自身のリアルタイムの社会問題（環境問題、先端医療技術倫理問題、経済問題等々）の根幹を押さえることにある。

日本思想史 (Intellectual History in Japan)

畑中 健二 助教 前学期 2-0-0

日本における「近代」というテーマで、テキストや図像に即して論じます。

文明開化とは、西洋近代の科学技術や社会制度の導入であると同時に、従来の思想の上に「近代」という時代特有の価値観・嗜好を上書きする過程でもありました。「近代」は、人々に（そして私たちにも）何を忘れさせ、代わりにどんな美しい夢を与え、どんな不安や幻滅をもたらしたのか。十八世紀から二十世紀にかけて日本に現れた諸思想を振り返り、道徳・宗教、異文化観、怪異への関心、女性像、機械イメージなど具体的なトピックに即して「近代」とは何であったかを検討します。

近代文学（Japanese Modern Literature）

野網 摩利子 非常勤講師 後学期 2-0-0

日本近代文学と科学との相互交流を学び、主体的に文学を捉え直す契機を与える。扱う作家は、夏目漱石、寺田寅彦を中心とする。科学的観点からの文学の分析、ならびに、小説内で取り上げられる科学の検証を通して、現代では問われることのなくなった、文学とは何かという問題、および、文学から照らすなら科学の特質とは何かという問題を受講生とともに解いてゆきたい。

古典文学（Japanese Classics）

津島 知明 非常勤講師 後学期 2-0-0

テーマ 古典文学再入門

私たちの前には「日本古典文学」と呼ばれる数々の作品が存在します。ところが実際、それらはなぜ「古典」たり得ているのでしょうか。単に「古いから」ではおそろくないはずです。ここでは『枕草子』『源氏物語』という、よく知られた作品を取り上げながら、なぜそれが「古典」と認定されてきたのか、そして、いま私たちとどのような対話が可能なのかを、考えていきたいと思っています。

日本文学（Japanese Literature）

浜崎 洋介 非常勤講師 後学期 2-0-0

本講義の目的は、昭和前期の小林秀雄に至るまでの近代日本文学についての精神史的考察である。明治維新以降、日本は次のような矛盾と葛藤を抱え込むことになった。すなわち、近代化しなければ独立国家たり得ず、しかし近代化すればするほどアイデンティティ喪失（故郷喪失）の危機に直面せざるを得ないといったジレンマである。そして、この矛盾は昭和初年代に登場してくる小林秀雄において徹底的に問われ、それが日本近代に初めて「芸芸批評」というジャンルをもたらす事になった。では、小林秀雄の文学に至るまでの、明治、大正、昭和文学の地平とはいかなるものだったのか。本講義では、その歴史を一つの一貫した精神史として描き出していきたい。受講者は、その戦前期日本文学の問いが、現代文学、あるいは現代日本の状況とも無縁ではないということを理解することになるだろう。

コラムキングダム（Column Kingdom） SC：（H26登録）創造性育成科目

山室 恭子 教授 後学期 1-1-0

陸地（くがち）へと聳え立つ王国——前期の文系導入科目「コラムランド」で、ものを書くことのむずかしさとおもしろさに覚醒した諸賢に、さらなる試練の場を提供するために開講されています。もちろん後期からの参加も歓迎。

文章力の高き嶺へと優雅に飛翔するか、暴走妄想の快楽の沼にまったり浸るか、それはお好み次第。

社会言語学（Sociolinguistics）

（平成27年度休講）

西條 美紀 教授 前学期 2-0-0

社会言語学はことばと社会の関係を扱う学問である。下位分類として、社会の中の言語のバリエーションを考える言語変異論、ことばの使いかたについての政策などを扱う言語政策・言語計画論、個人のコミュニケーションと社会の関係を扱う言語行動論がある。この講義では、これらの分野について概括するが、主に言語行動論に焦点をあて、具体的な会話の事例などを分析しながら、個人間の意味交渉や個人内の会話方略などについても考える。自分のコミュニケーションについて自省したい学生の積極的な参加を歓迎する。

情報社会とコミュニケーション (Communication in Information Society)

(平成27年度休講)

野原 佳代子 教授 後学期 2-0-0

人間は、情報を記号に載せてお互いに伝え、解釈し、とり込み合いながら共存しているものである。情報社会と言われるながらも、情報共有の前提が持てない不安定な現代のコンテクストにおいて、人はどのようにしてメッセージを受信・発信していくのか。

本講義は、「解釈」「とり込み」「翻訳」「操作」といった、コミュニケーションにおいて発生する行為に焦点をあて、それらのメカニズムについて考える。扱うコミュニケーションの種類は言語によるもののみでなく、サイエンス、アート、音楽、デザインを介したものなど多岐にわたる。講義形式をとるが、学生によるグループワークやディスカッションも取り入れていく。

理論言語学 (Theoretical Linguistics)

黒滝 真理子 非常勤講師 後学期 2-0-0

煩雑で混沌としたように捉えられる言語現象を理解するには、何らかの理論的枠組みが各言語において必要である。本講義では、物事の捉え方とことばの仕組みは密接に関係しているとみなす認知言語学(Cognitive Linguistics)の枠組みを通して、様々な日英語の言語現象について考えていく。その認知言語学理論を基に言語と文化の関係を考察する力を養い、ことばに関する様々な現象への興味をかきたて、関心や洞察力を深めることを目的とする。

オペラへの招待 (Introduction to Opera)

(平成27年度休講)

山崎 太郎 准教授 後学期 2-0-0

オペラは歌とオーケストラ、舞台美術と衣装、言葉と演技といったさまざまな要素が一体となって、愛と死をめぐる人々の情念と社会の複雑な様相を描き出す総合芸術である。視覚と聴覚の相乗効果には何ものにも代えがたい魅力があり、それゆえに16世紀末の誕生以来、貴族社会から市民社会へのヨーロッパの歴史の変遷において、娯楽と教養の対象として発展を続け、現在、世界的な舞台芸術としての地位を確立するにいたっている。本講義では代表的な作品をいくつか紹介。各作品をさまざまな角度から掘り下げ、その魅力に親しむことで、現代の私たちにとってオペラが持つ意味を考え、ひいてはヨーロッパの社会と文化の成り立ちをより深く理解するための一助とする。

大江戸講 (Virtual Tour to Edo) SC : (H26登録) 創造性育成科目

山室 恭子 教授 後学期 1-1-0

鍛えようプレゼンテーション力。

ちゃんと人前で話せますか？

この講義では、江戸の人たちの世界に親しみ、その元気なユーモアのセンスに学びつつ、自らのプレゼンテーション力を鍛えることを目指します。

ある週は江戸の見世(みせ)めぐり、ある週は怪談話に興じ、そのつぎは番付ダブルス。毎週、趣向を変えたメニュー

を楽しみつつ、少しずつステップアップしてゆけば、半年後、きっとあなたはプレゼンの達人。

歴史学 (History)

山室 恭子 教授 前学期 2-0-0

しっかり人類の起源から説き起こします。ユーラシア大陸に文明が芽生えたわけを地球規模で考察しつつ、文明の興亡の意味、ナショナリズムという怪物など世界史的なトピックをいくつか経て、後半は日本の戦国から江戸時代へ。武田信玄・上杉謙信、そして信長・秀吉・家康と天下を争った英雄たちを訪ね、花の大江戸の繁栄に遊びつつ、政治の意味、すなわち人々を治めるとは何をすることなのか、を問います。

歴史家はどんな手法で史実を彫り上げてゆくのか、という歴史学の〈方法〉に触れていただくのが主眼なので、予備知識は不要です。

現代史 (Contemporary History)

布施 広 非常勤講師 後学期 2-0-0

担当教員は新聞社の論説委員で、主に国際政治に関する社説・論説を執筆しています。日本と世界で起きる事象をどのように受け止めて何をすべきか、新聞社としての意見を述べたり問題提起するのが主な役割です。いままさに脈打っているニュースも含めて、重要な出来事とその背景を分析し、日本と世界のあり方を考えます。現代社会を生き抜くタフな洞察力と知性を養ってほしい。

メディア心理学 (Media Psychology)

岩男 征樹 助教 前学期 2-0-0

日常生活の中で、いったい我々はどうのようにメディアを介して他者とやり取りし、活動しているのだろうか。近年の心理学では、そのような様々なメディアに媒介されたコミュニケーションを情報伝達としてではなく、日常の中の文化歴史的な「メディア実践」と捉えた上で、研究者が直接現場に赴き人々と関わりを持ちながら調べていく研究が増えている。本授業では、実際に社会で注目されている具体的事例をいくつか取り上げ、検討していく中で、それらの研究の理論的枠組みと方法を紹介する。

心理学 (Psychology)

下田 俊介 非常勤講師 前学期 2-0-0

本講義では、心理学の基礎的な知識や方法論を学び、人のこころと行動についての理解を深めることを目的とする。具体的には、感覚と知覚、学習、記憶、動機づけ、感情、思考、心の発達、パーソナリティ、社会的行動といった心理学の代表的な研究領域について学習する。はじめて心理学を学ぶ人を視野に入れ、心理学における基本的な考え方とその理解に必要な基礎的な知識をわかりやすく解説する。

認知科学 (Cognitive Science)

河瀬 彰宏 非常勤講師 工藤 彰 非常勤講師 前学期 2-0-0

人間の「知」や「心」を解明しようとする認知科学は、心理学、情報学、言語学、神経科学、文化人類学などをクロスオーバーする領域横断的な学問分野である。認知科学のメソッドやアプローチとはどのようなものか？ 人間のいとなみを捉えるための考え方を提供したい。

テキスト解釈論 (Text Hermeneutics)

村井 源 助教 前学期 2-0-0

文書に書かれたことばの意味は一通りとは限らない。文書の書かれた時代背景・文化・言語・修辞法などの文書自体の特徴に合わせて、他の文書との関連性、文書を読む側の視点の問題なども踏まえることによって深遠な意味の世界が開けてくる。講義では、文書の意味を理解するためのさまざまな手法を、実例を挙げつつ紹介していく。

神経心理学 (Neuropsychology)

柴崎 光世 非常勤講師 前学期 2-0-0

神経心理学は、脳損傷者の示す多彩な心の障害（高次脳機能障害）を手がかりとして、心と脳の関連性について検討を試みる心理学の一領域である。授業では、はじめに脳の解剖学や代表的脳疾患など神経心理学の理解に欠かせない基礎的知識を確認した後に、史的展開、研究法、種々の高次脳機能障害といった神経心理学の本論について講義していく。神経心理学における代表的研究成果をもとに、私たちの心のはたらきとそれを支える神経過程について考えていきたい。

文化人類学 (Cultural Anthropology)

上田 紀行 教授 前学期 2-0-0

現代の世界的危機の根源を探り、その乗り越えをイメージしながら、文化人類学の入門を行う。文化の二面性、現代に至るまでの人類史の流れ、文化の習得と再創造などを講義するほか、受講者自身が自ら体験するワーク、ゲーム、ディスカッションなども行うので、積極的に参加して、自分を知り、他を知るきっかけとしてほしい。

文化社会論 (Culture and Society)

上田 紀行 教授 後学期 2-0-0

なぜ人類社会には「差別」や「暴力」が存在するのだろうか。そしてそこからの開放にはいかなる戦略が必要だろうか。「宗教」はその解決になるだろうか。前半では、差別や暴力を実例とともに論じ、後半では宗教の可能性と問題点を論じる。講義のみではなく、受講者参加によるワークやディスカッションも行われるので、積極的に参加してほしい。

憲法 (Constitution)

松村 芳明 非常勤講師 後学期 2-0-0

憲法や日本国憲法については、初等・中等教育でも一部教育されます。また、マスメディアやインターネットにおいて、憲法や日本国憲法に関する事柄がとり上げられることがあります。そのような素材から多くの日本人は、憲法・日本国憲法に関して常識的な考え方を持つに至っていますが、実は、そのような常識的な考え方は、憲法・日本国憲法に関する専門的な見方と、大きくずれている場合が多いのです。例えば、日本社会が抱えるいくつかの重要な問題を解決するためには日本国憲法を変えることが最も手取り早いと考える人もいますが、専門的に言うと、そのようなことは望めません。日本国憲法は、いじめやセクハラのような問題に直接対応するすべを持ち合わせている法ではありませんが、それは当たり前のこととされているのです。また、日本国憲法は60年以上前に制定されたためにプライバシー保護や環境問題のような時代の要請に答えられていないから変えるべきだと言う人もいますが、専門家でそのようなことを真面目に言う人はあまりいません。

このように、大学で学ぶ専門的な憲法学は、多くの点で、これまで皆さんが持ってきた憲法・日本国憲法に関する常識的な考え方に対して、まったく新鮮な知識を与えてくれるものです。

この講義は、日本国憲法を含む憲法とはいったい何なのかについて、とくに憲法が保障する人権についての知識領域を中心に、学んでゆくものです。その際可能な限り、日本社会のリアルな問題状況を憲法の言葉に翻訳するにはどうすれば

よいか、という姿勢を保とうとするものです。

期待と覚悟をもって臨んでみてください。

民法概論 (Civil Law)

金子 宏直 准教授 前学期 2-0-0

私人の権利・義務の基本的法規範である民法総則を中心に学習します。六法のつかい方をはじめとして、法制度のしくみや法律学の基礎的概念を学ぶ。

民事手続法 (Civil Procedure law) (偶数年度開講)

金子 宏直 准教授 後学期 2-0-0

民事訴訟法に関する基本的・理論的な学習を行う。また、民事司法制度の仕組み、裁判以外の紛争処理(ADR)等との比較を行い、権利保護と民事法的救済のありかたについて、具体的な事案や判例を取り上げつつ学習を行う。

倒産処理法 (Bankruptcy Law & Corporate Rehabilitation) (奇数年度開講)

金子 宏直 准教授 後学期 2-0-0

破産法を中心に、民事再生法等の倒産処理手続に関する法律を学習することを通じて、多重債務者や消費者破産、金融機関の融資、大企業の再生等の処理の社会的機能について理解を深める。

国際政治学 (International Politics)

池上 雅子 教授 前学期 2-0-0

現代政治は、近代国民国家システム (modern nation-state system) を基盤とする主権国家が専ら主体となって国際社会における政策決定、外交・安全保障を担ってきた。本講では、近代国民国家システムの本質（主権領土性）を先ず理解した上で、近現代世界を彩ってきた大国の勢力争い、帝国主義、植民地主義、ナショナリズム、戦争と平和の問題等々を考察し、国際政治学の基本的概念知識、理論を学ぶ。更に、21世紀に入って加速化するグローバリゼーションが国民国家システムに与える影響を、相互依存、非国家主体、非政府組織、国際機関、国際体制をはじめ国際政治経済・軍事・安全保障・社会文化の様々な側面から検討し、国民国家システムの未来と21世紀の国際政治状況を展望する。

教科書に基づく講義と平行して、学生の自主的な課題研究発表も履修要件に含める。

国際安全保障概論 (International Security Studies)

池上 雅子 教授 後学期 2-0-0

現代世界情勢は、安全保障問題抜きに語る事はできない。またグローバル化の時代、世界のいかなる地の戦争といえども無関係ではあり得ない。戦争はなぜ起きるのか、平和の条件は何か、なぜ大量破壊兵器は拡散するのか、核抑止は効くのか、なぜテロの脅威が増しているのか、なぜ各地で民族紛争が熾烈化するのか、東アジアの安全保障情勢はどうなるのか、等々の国際安全保障上の問題を批判的に考察する。これらの問題は、ひいては我々ひとりひとりの安全と生存の問題にも関わってくる。本講では、英文教材資料を多用しながら、安全保障に関する基本概念、理論を習得し（基礎）、現代世界の重要な安全保障問題を自ら分析理解できる能力（応用）の涵養を目指す。

教科書に基づく講義と平行して、学生の自主的な課題研究発表も履修要件に含める。

経済分析入門 (Economic Analysis: Introduction)

大和 毅彦 教授 樋口 洋一郎 教授 大土井 涼二 准教授 河崎 亮 准教授

前学期 2-0-0

この講義では、文系科目と思われがちな経済学が実は社会や経済の問題を考える上での基礎的な科学であり、理系的な解析力が必要不可欠であることを1年次生に広く知ってもらい、経済分析へ関心をもってもらうために行う。第1部では経済と経済学理論について、第2部では経済学により提案された政策の効果をいかに実証するかを話題とする。

ミクロ経済学 (Micro Economics)

佐藤 崇 非常勤講師 前学期 2-0-0

現代の全ての経済学の基礎となっているミクロ経済学の入門的な内容を講義します。文系基礎科目という講義の性質上、理論そのものを詳述するというより、ミクロ経済学を使って現実の経済社会現象をどのように説明できるかの紹介に重点を置きたいと思っています。

国際経済論 (International Economics)

佐藤 仁志 非常勤講師 後学期 2-0-0

現代社会を語る上で、経済のグローバル化は欠かせない要素となっています。本科目は、国境を越えたモノやサービスの取引（貿易）、国際的な企業の生産活動や人の移動、それらを巡る政策を扱います。授業では、まず、貿易の利益とは何か、何が貿易のパターンを決めるのか、企業活動の国際化や労働移動の自由化にはどのような経済学的な意味があるのかといった国際経済の基本的な問いについて考えます。そして、国際経済に働きかける政策の意味と役割を具体的な事例をあげながら探っていきます。本講義を通じて国際経済への理解を深め、経済のグローバル化が私たちの暮らしや国際社会にどのように関わっているのかを分析的に考えていきましょう。

社会学基礎 (Foundation of Sociology)

龍谷 和弘 非常勤講師 前学期 2-0-0

本講義では、社会学の基礎的な考え方について学習する。まず、社会学とはどのような学問であるかの説明を行う。その上で「グローバル化の生活世界への影響」を題材として、社会学の視点による現代社会の分析を実践する。グローバル化についての説明をした上で、家族やキャリア形成、地域社会、福祉国家などにもたらされている変化について講義する。

社会学応用 (Application of Sociology)

高久 聡司 非常勤講師 後学期 2-0-0

本講義では、緩和ケア、在宅医療、先端医療、インフォームド・コンセント、コンコーダンス等、日本社会における医療の現実分析をまじえながら、具体的な社会現象を把握する応用論を講義する。

数理社会学第一 (Mathematical Sociology)

青木 健一 非常勤講師 前学期 2-0-0

ヒトの社会行動の決定要因は、大別して3通りある。つまり、遺伝子、文化、イノベーションである。遺伝子（エピジェネティックな側面を含む）は、生物進化の産物であり、過去の環境において適応的であった本能行動を取るように我々を仕向ける。文化も、遺伝子と同様に世代を超えて継承され、我々の行動を方向付ける。イノベーションのみが我々の行動にある程度の自由度を与える。本講義では、具体的な事例（利他性と協力性、近親相姦の回避、学習戦略、人口と技術水準など）を踏まえた簡単な数理モデルを中心に、遺伝子の進化および文化の進化を解説し、その帰結としての我々の

社会行動を論じる。

数理社会学第二 (Mathematical Sociology II)

中丸 麻由子 准教授 後学期 2-0-0

この講義では主に微分方程式によるエポックメイキングな社会の数理モデルを紹介する。数理モデルによる社会研究の長所・短所、そして現実のデータとの対応も示しながら、モデル作りの基本的な考え方を講義する。数理モデルの解析方法を示しつつ、Excelを用いた数値計算実習によってモデルの挙動を実体験する。この講義を通して、数理モデルによってどこまで社会研究が可能なのか、不可能な点があるとしたら何であるのか考えてみて欲しい。

科学概論第一 (An Introduction to History of Science I)

梶 雅範 准教授 前学期 2-0-0

自然科学・技術の本質、その方法、その社会的機能などについて、科学の通史を通して講義する。第一では、科学の誕生から近代科学の成立さらに19世紀までの通史を取りあげる。科学的方法、科学的自然観についても考える。

科学概論第二 (An Introduction to History of Science II)

梶 雅範 准教授 後学期 2-0-0

第一をひきつぎ19世紀以降、現代にいたるまでの科学の通史を題材として科学・技術について考える。適宜、日本の事例や東工大の歴史についても触れる。

現代技術史 (History of Modern Technology)

中島 秀人 教授 後学期 2-0-0

現代の技術システムがどのように形成されたかについて、産業革命以降の発展に焦点を当てて論じる。科学と技術の融合、そして社会の「マス化」が授業の中心となる。このプロセスを完成したアメリカ、さらに技術を支える企業や国の研究所などの制度についても議論し、20世紀がいかなる時代だったかを、社会の科学技術化という観点から考える。できる限りAVを活用する。授業の評価は、試験70%、出席30%目やすとする。教科書はシラバスで発表する（技術史1と同じ教科書）。

技術史第一 (History of Technology I)

中島 秀人 教授 前学期 2-0-0

現代の技術システムがどのように形成されたかについて、産業革命以降の発展に焦点を当てて論じる。科学と技術の融合、そして社会の「マス化」が授業の中心となる。このプロセスを完成したアメリカ、さらに技術を支える企業や国の研究所などの制度についても議論し、20世紀がいかなる時代だったかを、社会の科学技術化という観点から考える。できる限りAVを活用する。授業の評価は、試験70%、出席30%目やすとする。教科書はシラバスで発表する（技術史1と同じ教科書）。

技術史第二 (History of Technology II)

(平成27年度休講)

未定 後学期 2-0-0

科学方法論 (Philosophy and Methodology of Science)

田子山 和歌子 非常勤講師 前学期 2-0-0

本講義においては、自然科学の知の構築に不可欠な様々な基礎概念について考えたいと思います。たとえば「法則」は自然科学にとって重要な概念であると思われます。しかし、法則とはそもそも何でしょうか。こうした疑問を、本講義では、自然科学的方法論構築に自覚的に取り組みだしたヨーロッパ17世紀の思想に焦点を当て考えたいと思います。本講義では、当時の文献（テキスト）を丁寧に読解・分析することを課題にします。客観的に見える自然科学的概念も、実は、神が世界をどのようなプログラムの下で造ったのか、という、神学的、形而上学的理解と密接に関係しており、それゆえ解釈は多様で一義的なものではないことに却って気付かされるでしょう。

科学史第一（History of Science I）

佐藤 賢一 非常勤講師 前学期 2-0-0

東アジア地域（中国・朝鮮・琉球・日本）における近代以前の数学史を概観する講義を行う。必要に応じて西欧の数学史との比較も行うが、できる限り、「漢字」・「中国語」で表記された伝統数学の実態を紹介していきたい。

科学史第二（History of Science II）

矢島 道子 非常勤講師 後学期 2-0-0

この講義では古代から現代に至る科学の歴史を、古生物学や地質学の歴史を通して概観してゆく。

毎年どこかで恐竜の展覧会が行われるが、それだけ恐竜の好きな人が多いということであろう。もっとも、恐竜は人類が地球上に出現する前に絶滅している。展覧会を開けるのも、化石の破片から恐竜を復元する学問すなわち古生物学が確立しているからにはほかならない。では古生物学はどのように確立してきたのであろうか。地球の学問の歴史、化石の学問の歴史をたどってみる。

古代から現代に至る科学の歴史をたどってゆくと、16、17世紀からだんだんと近代化され、現代化されていくのがよく理解されるはずである。この講義ではさらに、それぞれの時代で科学が社会の中でどんな位置にあったかも見ていく。また、女性が科学の中でどんな位置にあったかということも考えていく。

こうした試みをつうじて、科学の歴史の時間軸と空間軸（どんな社会で、どんな人々が担ったかなど）を形成し科学の「いま」への理解を深めることができるはずである。

生命倫理学（Bioethics）

吉武 久美子 非常勤講師 前学期 2-0-0

生命倫理学の基本的な考え方と問題を理解した上で、科学技術者として、生命を扱う専門家、行政担当者として、あるいは、患者として、その家族として、さらには一人の人間として、生命倫理の諸問題に対していかに行為すべきかを考える能力を養う。

科学技術者倫理（Ethics in Engineering）

中村 昌允 非常勤講師 後学期 2-0-0

科学技術者は、新規技術の開発とともに、開発成果を実用化し社会に貢献することが求められている。21世紀は、資源・エネルギーが枯渇し、食料が不足する。この状況下での人類の生存は、科学技術なしには成り立たない。しかし、新しい科学技術には未知のリスクが潜んでいる。このリスクを最小化し、危害をもたらさないことが科学技術者に求められている。

2011年3月11日 福島第一原発で地震による津波のために深刻な事故が起きた。この事故は科学技術に携わる者にとって、科学技術には完璧なものではなく、失敗の積み重ねの上に今日があることを再認識させられた。2014年に起きた「STAP

細胞」問題は、科学技術に取り組む一人一人に「科学技術者がしてはいけないことは何か」を考えさせた。いくら誠実に研究を行っても誤りを犯すことはあり、科学技術の発展は、誤りとその修正の繰り返しである。したがって、誤りそのものを不適切な行為とはいわない。ただし、誠実に研究を行った上での誤りか否かは問われる。

現代の科学技術は高度化し細分化されているので、その是非はその分野の専門家でないといけない。一つの分野の専門家も他の分野では公衆の一人である。現代社会は、それぞれの分野の専門家がその分野で最善を尽くすことを信頼し、相互に依存しあうことによって成り立っている。科学技術者が社会的責任を果たすには、一人ひとりが倫理観に則って、科学技術に忠実に判断し、正直にかつ誠実に業務を遂行することが求められる。

多くの事故原因を調べると、「大丈夫」と思ったという判断に基づいている。そして、ほとんどの判断が現場にいる技術者によって行われた。このことは技術者が事故を防ぐ最も大きな可能性を有しており、その責任が大きいことを示している。結局は、「危ない」と思うかどうかになるが、この「リスク感性」は先天的なものではなく、キャリアを積むことによってはじめて身に付くものである。しかし、キャリアを積むことは容易なことではなく、それを待っていることはできない。

本講義は多くの実際の事故事例を取り上げる。そして、事例の当事者の立場で、「私ならどう判断し、行動するか」を一緒に考える。すなわち、事例を「仮想体験」することによって、一人ひとりが自らの判断・行動基準を持つように進めていく。

一方、技術者は多くの場合、組織に属して仕事をしており、社会に危害を与えてはいけないという使命と、組織に忠誠を図ることとのジレンマに陥ることがある。このジレンマをいかにして克服するかも課題である。技術者の思いを経営の意思決定に反映できなかった事例も多い。このような現実の問題も一緒に考えていきたい。

参考図書：中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」オーム社（2012年）

中村昌允「製造現場の事故を防ぐ安全工学の考え方と実践」オーム社（2013年）

環境・社会論（The Theory of Environmental Protection）

伊瀬 洋昭 非常勤講師 歌川 学 非常勤講師 後学期 2-0-0

私たちが直面しているさまざまな環境問題について、社会的側面から整理・分析し、受講生にとって考えるべき論点・課題がより明確になる、そのことを目指して講義をすすめる。環境問題などの「現代的課題」に対しては、安易な結論に安住して思考停止状態になることを避け、より本質的な課題について検討し続けていくことこそが、重要だと考えるからである。

社会的側面から見たとき環境問題には、局所的なものにも地球規模のものにも共通する面を見出すことができるし、被害や一般に人間の健康の問題、技術の安全性と事故の問題、資源問題やゴミ問題、自然災害を防ぐ問題などと密接に関連する面も見出すことができる。そのような連関を視野に入れながら、いくつかの歴史上の事例を題材としてとり上げて検討を加える。

統計学基礎（Basic Statistics 1）

谷口 尚子 准教授 前学期 2-0-0

コンピュータとそのネットワークが発達した今日では、データの取得と流通はより容易になっている。統計的思考と統計手法は、こうしたデータから有用な情報を引き出し、それを研究や実務の場で生かすことを助ける。本講義では、その統計的思考と統計手法の基礎を解説する。

統計学応用 (Basic Statistics 2)

谷口 尚子 准教授 後学期 2-0-0

前期開講「統計学基礎」の知識を踏まえ、本講義では、実務や研究に役立つ統計分析手法の基礎を知ることが目的とする。統計分析の考え方といくつかの分析手法を支える理論を確認した後、統計分析ソフトを使った分析例・研究例について学ぶ。

交渉の科学 (Negotiation Science)

(平成27年度休講)

木嶋 恭一 教授 前学期 2-0-0

個人や企業・地方自治体・政府などあらゆる局面でみられる広い意味での相互作用である交渉を、システム論の視点からアプローチする。人間や組織間の交渉の構造と過程を記述する数理的モデル、主体間の交渉が提携を形成する過程に注目するシミュレーションアプローチなどについて説明する。さらに、ビジネスにおける交渉・自己主張など実践的な話題についても言及する。なお、履修者の人数制限を行うことがある。

社会ネットワーク理論 (Social Network and Decision Making)

大堀 耕太郎 非常勤講師 穴井 宏和 非常勤講師 前学期 2-0-0

社会システムにおいて、人々はネットワークを形成し、様々な意思決定を行っている。ある人の意思決定が他の人の意思決定に影響を与え、さらには社会ネットワーク全体の振る舞いにも影響を与える。社会システム全体として望ましい状態を導く施策や制度を設計するためには、このような人々の複雑な影響関係を人間の心理的な側面も踏まえて考えていくことが重要である。本講義では、社会ネットワークにおける人々の意思決定状況を捉え、社会システムの施策や制度を設計し、それを評価する、という社会システムデザインに関する一連の方法について解説する。

合理的選択 (Rational Choice)

小林 憲正 助教 前学期 2-0-0

合理的選択 rational choiceとは、複数の選択肢を評価し、評価値が最大のものを選ぶ決定の仕方を表す専門用語であり、ミクロ経済学やゲーム理論の根幹をなす。

不確実性、多属性、多主体など、様々な環境下における合理的選択パラダイムの展開を体感し、批判的に検討することを通じて、合理的思考について多角的・主体的に追求するきっかけを得ることが本講義の狙いである。

論理的思考にまつわることを勉強する目的で、論理学を勉強することに相当すると理解してもらいたい。

Rational choice is a technical term that represents the choice of an alternative with highest value from among multiple alternatives. The lecture develops rational choice paradigm under various situations including uncertain and interactive decision situations. Students taking the course will hopefully enhance the attitude of critical thinking.

ファッション政策論 (Fashion Policy)

(平成27年度休講)

中村 仁 非常勤講師 後学期 2-0-0

近年日本を発信源とする、ファッションやアニメーション、映画、ゲーム、音楽などの文化が海外において高い評価を受ける事例が増加している。特にリアルクローズファッションはアニメーションやゲームに続き、日本が発信する文化として新たな注目を集めている。この現象は、外国の人々が日本に対する共感と信頼を高めることにつながるとともに、産業としての国際競争力も増加することが期待されている。行政もこの流れを支援するため、さまざまな施策を行っている。

この講義は、ファッション等のクリエイティブ産業を例として、これからの時代の産業政策を概観する。
なお、必要に応じて同分野の実務家をゲストスピーカーとして招へいする。

現代日本を知るために (Knowing Japan now)

池上 彰 教授 前学期 2-0-0

あなたが暮らす現代の日本。政治にしても経済にしても、なぜこうなっているのか、疑問に思うことが多いのではないだろうか。そこには、これまでの歴史の積み重ねがあるからだ。

高校までの授業では、第二次世界大戦までの歴史は学んでも、その後については、カットされたり、駆け足で過ぎたりしがちなのが現状だ。それでは社会人としての教養に欠けることになる。本科目は、その欠落部分を少しでも埋め、大学での各種科目への橋渡しをすることを目的とする。

扱うテーマは、自衛隊、安保条約、高度経済成長、公害問題、沖縄の基地問題、学生の反乱、バブルの発生と終結、政権交代など多岐にわたる予定。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」。

現代世界を知るために (Knowing the world now)

池上 彰 教授 後学期 2-0-0

アメリカやロシア、中国は、なぜ核兵器を持っているのか。「ベルリンの壁」とは何だったのか。朝鮮半島はなぜ分断されているのか。中東はなぜ血なまぐさいのか。「ユーロ危機」はなぜ起きたのか。あなたは、疑問に思ったことがないだろうか。

この背景を知るだけで、あなたの「現代世界」への洞察は深くなるはずだ。

高校の授業ではとくにおぼろげにされがちな第二次世界大戦後の世界について概観し、大学での各種科目への橋渡しをすることを目的とする。

社会心理学 (Social Psychology)

平山 亮 非常勤講師 後学期 2-0-0

社会心理学が扱う様々な問題と、主な研究知見を概説する。社会心理学の先駆的研究や、社会的環境に対する私たちのとらえ方とその傾向（偏り）を踏まえた上で、対人関係や社会集団における私たちの行動を説明するための概念や理論を学ぶことを目的とする。

他人の前では、私たちはなぜこのように振る舞ってしまうのか？

有能な人々が集まっているはずの組織でも、“不合理”な決定を下してしまうのはなぜか？

これらの問いを社会心理学的に考えるための視点を、心理学を初めて学ぶ学生にとっても分かりやすく説明したいと考えている。

ネットジャーナリズム論 (Internet Journalism)

津田 大介 非常勤講師 前学期 2-0-0

ジャーナリズムと、ネットがジャーナリズムに与えた社会的影響や最新動向を論じながら現代のメディアのあり方や、ネットの情報発信全般について自ら考えられる力を身につけるとともに、ソーシャルメディア時代のメディアリテラシーについて実践的な理解を深める。

ファッションデザイン概論 (Introduction to Fashion Design)

高村 是州 非常勤講師 後学期 2-0-0

「ファッション」は、社会生活を送るうえで欠かせないものですが、衣服を「着る」という意識は人さまざまです。人々は衣服をどのように捉え、発展させてきたのでしょうか。この講義では衣服をまとうと言うことは何か、流行とは何か、オシャレとは何か、自分らしさとは何か・・・といったキーワードを軸にファッションについて一緒に考えていきます。

芸術と社会 (Art and Society)

伊藤 亜紗 准教授 前学期 2-0-0

「アートなんてただの道楽でしょ、いったい何の役に立つの?」と思っているアナタ。その問いにズバリ答えます。古代ギリシャのパルテノン神殿から現代のストリートアートまで、古今東西の作品をとりあげながら、芸術の機能や芸術が社会にもたらすものについて考えます。

アートから見る日本社会 (Contemporary Art and Japan)

伊藤 亜紗 准教授 後学期 2-0-0

アートは社会をうつす鏡です。歌、絵画、小説、映画などの作品を観察し、なぜそのような表現ができたのかを考えることで、戦後の日本社会の変化を知ることができます。授業は、一方通行の講義形式ではなく、受講者参加型で行います。まず小グループに分かれ、講師が持参した作品をじっくりと観察し、自由にディスカッションする時間をとります。その後、ディスカッションの成果を発表してもらい、講師がその背景にある社会の様相等について解説を加えます。過去の日本社会を「知識として知る」のではなく、その時代に生きた人々の心情や問題意識を「実感」してください。

問題解決のための思考法実践 (Practice of Thinking Method for Various Cases)

宇野 健司 非常勤講師 後学期 2-0-0

学生のグループワークとディスカッションを主とした、学生参加型の授業である。グループワークとディスカッションの方法について、講師が、シンクタンクの大和総研の実務者としての経験を活かして指導にあたる。学生個人の問題意識を基盤とした自主性の高い双方向の授業を展開する。

グループワークとディスカッションのテーマは、現代社会における多様な分野、例えば、金融、経営、経済、グローバルエコノミーに跨る。具体的な事案をケーススタディとして扱い、それぞれのケースに存在する問題や改善点を議論する。

ミクロ経済学基礎 (Basic Microeconomics)

後藤 美香 教授 前学期 2-0-0

ミクロ経済学の基本的な概念や分析の方法について解説する。

マクロ経済学基礎 (Basic Macroeconomics)

後藤 美香 教授 後学期 2-0-0

マクロ経済学の基本的な概念やデータの読み方などについて解説する。

科学哲学 (Philosophy of Science)

小山田 圭一 非常勤講師 後学期 2-0-0

科学についての哲学的問題には様々なものがある。科学の目的や対象とは何か、科学の方法とは何か、科学的知識とは何か、科学とは何か、などの一般的な問題がある一方、物理学や化学、生物学などの個別科学においても哲学的に考察す

べき問題が多々ある。本講義では、そうした様々な問題のいくつかについて、その背景とそれに対する既存の見解を紹介し、それらをできるかぎり理論的・体系的に考察する。その上で、最善の解答あるいはこれまでよりも良い解答があるかを探りたい。

公共システム論 (Behavioral Theory of Public Systems)

坂野 達郎 教授 前学期 2-0-0

地球温暖化、資源の枯渇はなぜ生じるのでしょうか。また、問題だとわかっていながら、なぜ解決することが困難なのでしょうか。個人個人が合理的に振る舞うことは、社会全体にとって望ましくない結果を生じることがあります。このような状況のことを集合行為ジレンマと呼びます。集合行為ジレンマ問題を解決するためには、個人の私的行為に何らかの形で制限を加えることが必要です。私的行為に対する強制性が、公的意思決定の本質です。ただし、個人意思に反した規則や規制は有効性に欠けます。公共システム設計の最大の問題は、個人合理性と全体合理性の矛盾を、個人の自由を損なわずにいかに解くことができるかという点にあります。

豊かな社会は、集合行為問題を解決するために、様々な社会的なしくみや価値観を発達させてきました。特に国家と市場という近代を支えてきた2つのシステムの限界が顕著となった現在、両者に代わるメカニズムを創出することが期待されています。従来ばらばらの学問であった、社会学、心理学、政治学、経済学は、社会的ジレンマの解決、制度設計をめぐってようやく共通の理論体系を確立しつつあります。本講義では、政治経済学の分野からこの問題に先駆的に取り組んだE. Ostromの理論枠組みを基軸に、社会心理学の成果を取り込み、公共システム設計の理論を学びます。

生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか (How to find the theme which you devote yourself)

最相 葉月 非常勤講師 前学期 2-0-0

科学者はいかに生涯を賭けるテーマに出会うのか。本講では毎回一人ずつ、ロールモデルとなる人物を採り上げる。幼少期から何に関心をもち、どのように師となる人と出会ったか。苦労や挫折をいかに乗り越え、どのように課題に取り組んだかなど、実体験に基づくエピソードを通して紹介する。対象とする人物は有名無名を問わず、分野も分子生物学、物理学、遺伝学、工学、再生医学、心理学、精神医学、植物学など多岐に亘る。企業研究者やリタイアした人、科学者ではない道を選んだ人も採り上げながら、科学研究が先人の歴史の上にあることや科学者の社会的責任、科学者としての多様な生き方、未来に求められる科学者像などについて考えてもらう。本人を招き公開インタビューを行う回も設ける予定。

コミュニケーションの基本 (Basic of Communication)

パトリック・ハーラン 非常勤講師 前学期 1-0-0

あなたは「コミュ障」？ そう名乗っている東工大生は多い。しかし大学生にとって、コミュニケーションスキルは学業にも私生活にも欠かせないものだ。発表したり、論文を書いたり、就職活動したり、学生同士の共同企画に挑戦したり、異性との接近を果たしたり…コミュニケーションのチャンスは毎日訪れる。社会人になってからも会議、プレゼン、交渉、売り込み、指導などなど。大企業の社長になったらいずれは謝罪会見のチャンスもあるかもしれない！

現在の日本にも課題が山積している。国内では原発の再稼働、少子高齢化、財政再建、地方創生、特定秘密保護法などが日々話題に上がっている。国際社会においては温暖化、貿易協定、テロ対策、集団的自衛権の実施、領土問題など、どれをとっても「急務」が目につく。実は、どれも外交官、政治家に任せっぱなしでは解決できない問題だ。新しいアイデアをぶつけあう議論で解決策を見つけて、他人を説得して国の行動を変えなければいけないのだ。それはつまり、国民の仕事である。何よりも、そのすべてのステップに必要なのはコミュニケーション能力であるといえる。生産力、経済力、

武力だけでなくコミュニケーション力も国力の一つだ。

意外かもしれないが、コミュニケーション能力は生まれつきのものではない。学べ、鍛えられ、高められるものだ。この授業では修辞学に基づいてコミュニケーションの基本を学習し練習し「コミュニケーションの実践」で実践練習につなげていく。連結する形で2単位になる。個人として、国民として、ぜひぜひ責任を持って是非参加してください。

コミュニケーションの実践 (Applied Communication)

パトリック・ハーラン 非常勤講師 前学期 1-0-0

この授業は「コミュニケーションの基本」の後半戦として理論から実践に転換する。ディスカッション、ディベート、プレゼン、交渉、論文、会見、インタビューなどなど、コミュニケーション場面の具体的な実践練習に集中する。型を覚えてたところで今度はリングに立ってもらおう！

＊この授業は「コミュニケーションの基本」または2012年・2013年の「コミュニケーションと国際関係」を履修している方のみ受講可能です。

文系発展科目 (文系専修)

社会的合意形成の技法 (Technics of Social Consensus Building)

桑子 敏雄 教授 前学期 1-1-0

現在、地方分権や住民参加の推進などによって、行政と住民、住民と住民の話し合いの機会が多くなっています。社会基盤整備や環境問題をめぐる対立や紛争を解決するための不特定多数を対象とする合意形成では、説明責任や透明性の確保、コミュニケーションの技術など、会議や集会を設計、運営、進行するための基本的な思想とそれを実現するための技術が求められています。本講義では、社会的合意形成の考え方と手法を論じます。

Topics on Japan II 英語で学ぶ日本事情II

佐藤 由利子 准教授 前学期 1-0-0

Through this course, regular students (Japanese and International) and exchange students from overseas partner universities are expected to deepen their understanding of Japan and the Japanese society in comparison with other countries through lectures, discussions and presentations. All classes will be conducted in English.

While Topics on Japan (TOJ) I, starting from October, deals with basic knowledge of Japan and the Japanese society, TOJ II aims at deepening students' understanding further, by dealing with topics such as economy, politics and gender. In the last part of the course, students are expected to explore the characteristics of Japan and the Japanese society themselves by making presentations on 'Discovery of Japan'.

Class participants are encouraged to exchange with the classmates of different nationalities and to understand other values and cultures than their own.

Please challenge and enjoy this course!

Topics on Japan I 英語で学ぶ日本事情I SC: (H26登録) 創造性育成科目

佐藤 由利子 准教授 後学期 1-0-0

Through this course, regular students (Japanese and International) and exchange students from overseas partner universities are expected to deepen their understanding of Japan and the Japanese society in comparison with other countries through lectures, discussions, presentations and visit to a relevant place. All classes will be conducted in English.

Topics on Japan (TOJ) I mainly deals with basic knowledge of Japan such as history and education, while TOJ II, starting from April, aims at deepening students' understanding of Japan further. In the middle of TOJ I course, students are expected to make a group presentation on 'My country and home town' to promote mutual understanding.

Students are encouraged to exchange with classmates of different nationalities and to understand other values and cultures than their own.

Please challenge and enjoy this course!

科学社会学 (Sociology of Science)

中島 秀人 教授 後学期 1-1-0

この授業では、科学技術社会論という新しい学問分野の立場から、科学・技術・社会相互のあるべき関係を考える。具体的には、数冊の本を取り上げ、少人数のゼミ形式で議論する。具体的な内容については、初回に説明する。授業の評価

は、議論への参加50%，出席50%を目やすとする。

集団意思決定理論 (Group Decision Making)

(平成27年度休講)

猪原 健弘 教授 後学期 1-1-0

会議や委員会での意思決定や、選挙による代表者選出など、通常、複数の意思決定主体によって行われる意思決定を「集団意思決定」と呼ぶ。集団意思決定では、最終的な決定が採決を通じて行われることが多いが、採決以前に意思決定主体の間で情報交換が行われることが普通である。この講義では、集団意思決定の中での情報交換における、各意思決定主体の意見の柔軟性に注目し、情報交換と意思決定の結果の間の関係について調べていきたい。

As in a meeting and in an election, decision making in which many decision makers are involved is called group decision making. The final decision in a group decision making situation is usually provided through a voting, and decision makers interact with each other before the voting. In this lecture, considering the flexibility of decision makers, we examine the relations between information exchange among decision makers and the final decision.

現代世界の歩き方 (Walking around the world)

池上 彰 教授 前学期 1-1-0

被爆国・日本は、なぜ原子力発電を推進したのか。憲法とはそもそもどんな存在か。「憲法9条」をめぐる論議とは何か。株式会社は誰のものか。君たちは将来年金を受け取れるのか。テレビはなぜ視聴率競争をするのか。「アラブの春」とは何だったのか。アメリカの大統領選挙は、なぜあれほど盛り上がるのか。北朝鮮は、なぜ「奇妙な国」なのか。

日本と世界の現状と、その背景を知ること、あなたは「現代世界」をひとりで歩けるようになるだろう。

科学技術政策分析 (Science & Technology Policy Analysis)

池上 雅子 教授 後学期 1-1-0

核兵器や原子力に象徴されるように、現代の高度科学技術は、人類の存亡を左右する程重大な政治的社会的影響力をもつ。技術は、一方で無限の可能性を与えるが、制御不能または誤って使用されれば核兵器のように人類を滅ぼす事もできる。その絶大な潜在性の故に、特定の時代状況・社会的コンテキストに於ける科学技術は、厳密には価値自由 value-free たりえない。したがって個々の政策決定は、必然的にその道義性・倫理性を問われる。M. L. キング牧師の “Our scientific power has outrun our spiritual power. We have guided missiles and misguided men” は正鵠を射た卓見だ。本講では、核兵器、原子力、航空宇宙、ミサイル防衛など人類に絶大な影響力をもつ高度技術の研究開発政策を批判的に検証しながら、人類の福利に寄与する科学技術政策のあり方を、批判社会学的アプローチで模索する。本講では、高度技術の研究開発政策決定過程とその帰結を、批判社会学的な事例研究 (qualitative case studies) を通して検証する。これは、マネジメントとしての科学技術政策定量分析の対極に立ち、過去の事例を教訓として大局的時代状況に照らした技術と人間社会に関する洞察を深め、人類の福利と倫理道德に適った科学技術政策を講じられる思慮深さと洞察力の涵養を目指す。

マネジメントとしての科学技術政策の定量分析に関しては、他の然るべき講座を受講するように注意されたい。

(文系ゼミ)

文系ゼミ第一～第六 (Advanced Humanities and Social Sciences I～VI)

各教員 各0-2-0

人文科学，社会科学についての深化した学習を通じて，文系学問の深い素養と思考法を修得することをめざす。少人数制を原則としたこの科目は，各授業担当教員により，開講形態，対象学年などが大幅に異なるので，「教授細目」（シラバス）」を参照されたい。

総合科目

総合科目 (General Course on Humanities, Science and Technology)

各教員 前学期 後学期 2-0-0

総合科目は，従来の学問分野の区分けを超えて，異なる文系同士，あるいは文系と理工系とが融合またはクロスオーバーするような学際的・広域的テーマについて，複数の教員が共同で開く科目である。各クラスの授業担当教員，テーマ，内容については，「教授細目（シラバス）」を参照されたい。